

## 流域管理シンポジウム ―地域の個性を活かす流域ガバナンス― 議事概要

- 1 開催日時：平成29年2月27日(月) 13:00～17:40
- 2 場所：大阪国際会議場(グランキューブ大阪) 1202 会議室
- 3 プログラム：
- 開会挨拶 中川博次 京都大学名誉教授，琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 座長  
 基調講演「日本文明と関西とエネルギー」  
 竹村公太郎 日本水フォーラム代表理事，元国土交通省河川局長  
 研究報告「地域の個性を活かす流域ガバナンスの実現に向けて」(事務局)  
 パネルディスカッション「今、優先して取り組む課題を考える」  
 中村 正久 滋賀大学 環境総合研究センター 特別招聘教授，琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 副座長  
 竹村公太郎 日本水フォーラム代表理事，元国土交通省河川局長  
 小林健一郎 神戸大学都市安全研究センター 准教授  
 佐藤 祐一 琵琶湖環境科学研究所 主任研究員  
 田中 賢治 京都大学防災研究所 水資源環境研究センター 准教授  
 原田 禎夫 大阪商業大学経済学部 准教授  
 三橋 弘宗 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 講師  
 山本佳世子 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 准教授  
 閉会挨拶 嘉田由紀子 びわこ成蹊スポーツ大学学長，琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会顧問
- 4 来場者数：85名

## (1) 基調講演「日本文明と関西エネルギー」

(竹村公太郎 日本水フォーラム代表理事，元国土交通省河川局長)

- ・ 将来予見される化石エネルギーの枯渇や人口減少を前に、国土特性にあった水力発電は利用価値がある。
- ・ 近代からポスト近代に向けては、「画一性」から「多様性」、「集中」から「分散型」、「スピード」から「スロー」へと転換し、流域を大切にし、自然の恩恵を受けられるようにすべきで、次世代・次々世代のことを考えることが重要である。

## (2) パネルディスカッション

(進行：中村 正久 滋賀大学 環境総合研究センター 特別招聘教授，  
 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 副座長)

- パネリストによるリスクファイナンス、水源保全制度、海ごみの発生源対策、広域生態系保全・再生、水の危機管理の強化など、これらの課題解決に向けて若手研究者の成果をどのように活かし、今後どのように取り組んでいくべきかについて議論がなされた。
- ・ 情報技術が進み、流域全体で各地点の水源涵養量の時間変化をシミュレーションできる。ただし、計算には仮定を多く置いているので、流域住民の方々が納得できるところまでキャッチボールして調整していくプロセスが必要。(田中准教授)
- ・ 研究機関や行政の専門知に対し、流域住民がリテラシー(理解し活用する能力)を高める機会を持ち、市民の皆様に参加していただくことが重要である。

(山本准教授)

- ・ 関西広域連合(広域環境局)では戦略を与えるために、生態系サービスを定量化・地図化してどこで劣化しているかを示した。ランク付けすることで改善の動機となる。
  - ・ 技術を高めることは大切であるが、現在は基本的なデータすら出せていない状況でもできることは多くある。できるだけ簡便化して政策適用していくことも重要。  
(三橋講師)
  - ・ デポジット制など経済的インセンティブを与えることが重要。 単独の自治体では難しいが、関西広域連合として取り組めるのではないか。  
(原田准教授)
  - ・ 行政担当者や市民の皆様とコミュニケーションを取り検討のプロセスを共有できてはじめて政策に反映される。  
(佐藤主任研究員)
  - ・ 流域全体での水害リスクの算定は可能であり、水害保険の料率算定にも活用できる。
  - ・ 水工学、水文学の先で、保険設計などを政策化するには、その分野の実務者も交えたチームで検討していく場があればいい。  
(小林准教授)
  - ・ 関西広域連合がものすごい可能性を持っていることを感じた。このように研究者が集まり関西という広い視野で政策課題を議論している場所は日本中他にない。
  - ・ 過去のインフラ投資の効果も含めて治水、利水、環境の安全性で表す流域の地域力を示せれば、関西は最もアドバンテージのある場所ということを示せるのではないか。行政はそういった視点での評価はできないので、これは関西広域連合にしかできない役割ではないか。  
(竹村代表理事)
  - ・ 課題のうち、①リスクファイナンス、②水源保全制度、③海ごみの発生源対策は特に重要だと思う。研究会として政策提言まで持っていく、連合委員会に提案してもらいたい。  
(嘉田顧問)
- (以上)